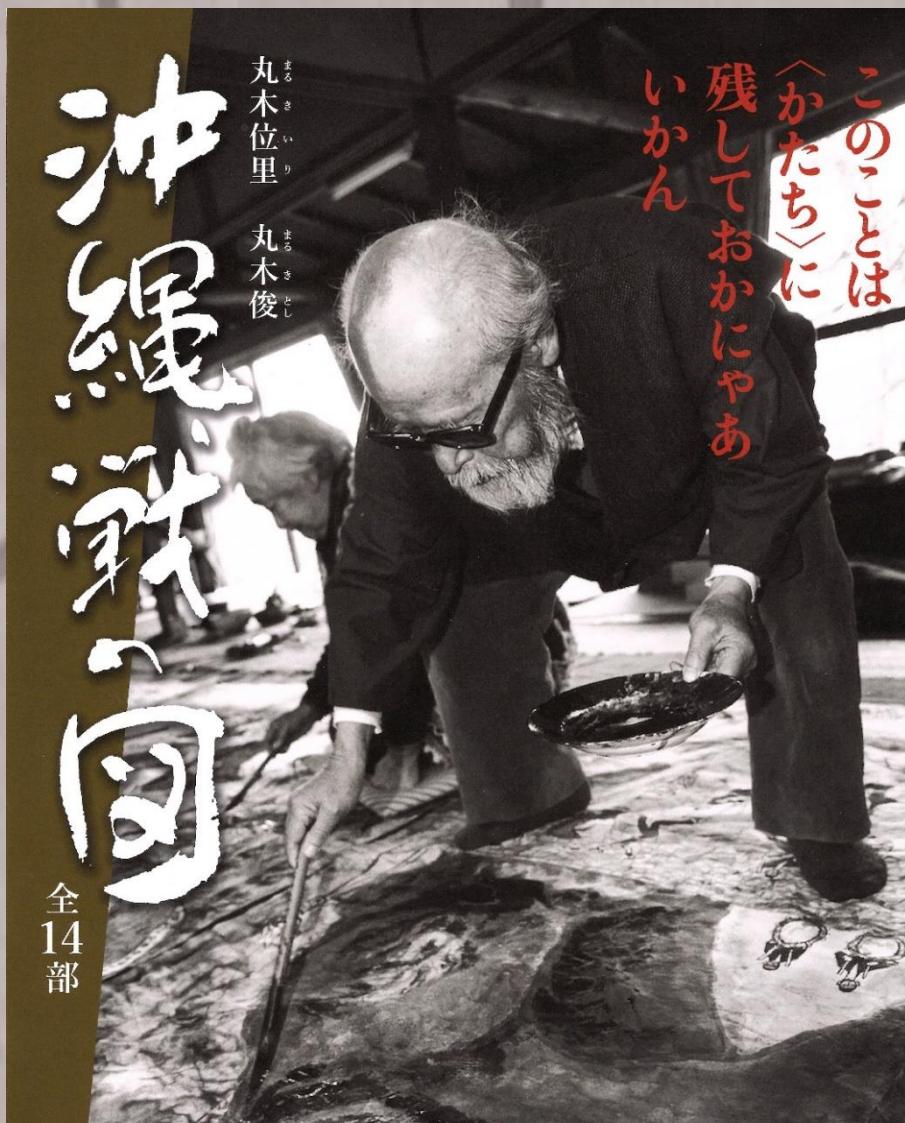


ぬち

命どう宝～平和のためにできること～

第1回『沖縄戦の図 全14部』上映会

令和8年2月1日(日)14時～15時40分



川崎市教育文化会館 4階 第1学習室



——申込受付——

令和8年1月15日(木)午後1時～

電話 044-233-6361 または HP にて受付(先着順)

HP

対象・定員 関心のある方 40人(無料)



申込フォーム

第2回(2月20日)は脚本家吉田恵里香さんの講演会です。1回のみの参加も可能です。

※お申し込みの際にお伺いする氏名・連絡先などは、個人情報の保護に関する法令に基づき、適切に取り扱います

美しければ美しいほど、やさしければやさしいほど、 沖縄の惨劇は胸をえぐる

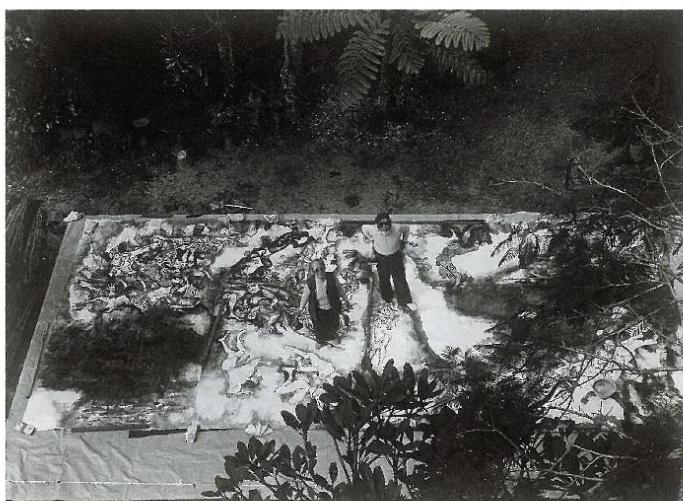
丸木 俊

広島・長崎の核爆発の凄絶さを《原爆の図》15部に描きつづけた丸木位里・丸木俊が、晩年に取組んだのが地上戦を体験した沖縄戦だった。

「沖縄はどう考へても今度の戦争で一番大変なことがおこつた。原爆をかき、南京大虐殺をかき、アウシュビッツをかいたが、沖縄を描くことが一番戦争を描いたことになる」（位里）

「戦争というものを、簡単に考へてはいけないのです。一番大事なことがかくされて来た、このことを知り深く掘り下げて考えなければなりません」（俊）

このドキュメンタリーは、全14部をすべて紹介する初めての試みである。地上戦を生き延びた沖縄の人びとの切実な「命どう宝（命こそ宝）」に共感共苦した、丸木夫妻の「人間といのち」への深い鎮魂と洞察の軌跡をたどる物語である。

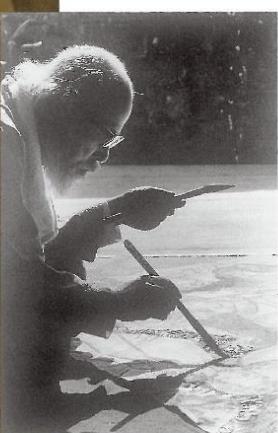


写真：石川文洋

【沖縄戦の図 全14部】

1982～87年、丸木夫妻は沖縄に通い、続け、地上戦の「現場」に立ちながら沖縄戦を連作14部に描いた。ふたりは、沖縄島や近隣諸島をめぐり、体験者の話に全身全霊を傾け、沖縄に関連する160冊以上の本を読み、研究者を訪ねた。戦後78年、いまなお癒えることのない戦争の心の傷から絞り出すように語られた証言に「かたち」を与えていった。

全14部は、宜野湾市の佐喜眞美術館にすべて収蔵されている。



写真：本橋 成一

まるき いり
丸木 位里

（広島県生まれ 1901-1995）

まるき とし
丸木 俊

（北海道生まれ 1912-2000）

広島・長崎に投下された原爆による人類未曽有の惨状を共同制作《原爆の図》15部（1950-82）に結実させ、世界に衝撃を与えた。《南京大虐殺の図》《アウシュビッツの図》《水俣の図》《水俣の図》等を手掛け、6年をかけて晩年の集大成《沖縄戦の図》全14部を制作。世界平和文化賞（1953年）、ノーベル平和賞ノミネート（1995年）、その他国内外で受賞多数。



沖縄の人びとの願いと
丸木位里・丸木俊の深い思想が出会いって
《沖縄戦の図》全14部が生まれました。

佐喜眞美術館 館長 佐喜眞道夫



監督・撮影：河邑 厚徳

音楽監督：尾上 政幸 編集：莉尾 明子 作曲：川田 俊介 助監督：佐喜眞淳 製作：佐喜眞道夫 資料リサーチ：上間 かな恵
CG制作：中村 照雄 配給：海燕社 2023年／88分／16:9／日本／ドキュメンタリー

© 2023 佐喜眞美術館、ルミエール・プラス

多くの方に見ていただきたいドキュメンタリー作品です。知ることが平和への一歩となりますように

主催 川崎市教育委員会（実施機関：川崎市教育文化会館）